

富士見市基本構想策定ふじみ市民会議
第3回 教育文化部会 会議録

日時：平成22年1月22日(金) 午後7時～午後9時20分 場所：市役所2階 市長公室

出席状況

市民会議委員	高橋委員、阿部委員、岩田委員、羽石委員、深田委員、山口委員、横田委員（欠席3名）
庁内専門部会員	教育総務課長、学校教育課長
事務局（政策財務課）	吉野、林

傍聴者	なし
-----	----

内 容	
1 開 会 事務局	
2 あいさつ 市民会議 部会長あいさつ	
3 報告事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前回会議の質問事項に対する回答 〈質問〉 大柱「人権の尊重」－中柱「人権の尊重」－小柱「人権保障の推進」の取組みとして、児童虐待に対しては「3歳児健診2次相談に臨床心理士を配置し、虐待のリスクをかかえる親の支援を実施」としているが、支援としての具体策は何か。 〈回答〉 3歳児健診時に発達・発育の遅れ、児童虐待の恐れのある親に対して、2次相談を受けるよう手紙を送付し、虐待の懸念の強い親に対しては、訪問を実施。2次相談に臨床心理士、保健師が立ち会い、相談の結果をかたつむり教室、言語相談につなげている。（かたつむり教室…言葉の遅れ、落ち着きがない、発達上何らかの遅れや心配がある児童を対象に親子で教室に通うグループ教室。集団の中で児童の発達を促すことと、親同士の交流、仲間作りの支援を行うなど、虐待予防の育児支援相談の場となっている）
4 検討事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第4次基本構想の「施策の目標」に対する今後の課題について、市民意識調査・行政水準の概要と分析結果、及びこれまでの議論・資料を踏まえ、大柱ごとに整理した内容を事務局から説明した後、質疑応答、意見等を出し合った。 本日は、大柱8本のうち4本（人権の尊重、生涯学習体制の充実、学校教育の充実、

市民文化の創造) について検討する。

○質疑・意見

<大柱 人権の尊重>

委員： 法務局の人権侵犯事件受理件数で学校におけるいじめの受理数が増えているが、学校教育に道德教育の時間を増やし、具体的な効果が実感できるような授業を行うことによって、いじめの件数削減につながるのではないか。

専門部会員： 小中学校とも週1時間の道德授業を基にして、学校教育全般を通し人権尊重に力を注いでいる。今日の道德ではどんなことを学んだか子どもに聞いてみるなど、家庭でのフォローもいただくとありがたい。

委員： 道德は担任の先生によって授業の持ち方が違うのではないか。

委員： 会議の運営についてだが、使用する資料の早めの送付と、検討する大柱について事前の提示をお願いする。欠席者からの意見ももらったほうがよい。行政水準の人権に関する講演会・講座数が合計になっているが、内訳は。

事務局： 今後早めの資料送付を心掛ける。講演会数等の内訳は後ほど報告する。

委員： 命の大切さ、言葉の大切さは人権尊重の基本であり、いじめに対する施策を大きく取り上げてほしい。文科省の姿勢はどうか。

専門部会員： いじめの定義が、自分がいじめと感じたものは全ていじめにカウントするよう変更になったため、いじめの件数が増えている。学校(教員)では、いじめは絶対許さない、いじめられた子を最大限守っていくという姿勢で取り組んでいる。家庭でいじめられている兆候がみられたらすぐに連絡してもらい、早い段階でいじめの芽を摘み取りたい。

委員： 自分・相手の人権を尊重した上で、自分の意見や気持ちをその場に適切な言い方で表現出来るようにするアサーショントレーニングを授業に取り入れている。児童によっては、からかいなどもいじめと捉えるケースもある。

<大柱 生涯学習推進体制の充実>

委員： 多様な市民ニーズに応えられるよう市民人材バンク登録者を発掘していくのは難しい。今後の課題に人材バンクと出前講座の有機的連携とあるが具体的には。また企業の社会的貢献事業と連携した地域活性化事業とあるが、想定しているのはどのようなものか。

事務局： 市民会議でも人材バンクと出前講座を生涯学習の両輪として推進する旨の意見があったが、現在、人材バンクは市民による登録者、出前講座は職員によるメニュー設定と別個の仕組みとして動いているので、今後何らかの連携を持たせて生涯学習を推進していくことが効果的ではないかと考え課題として掲出した。

専門部会員： 出前講座は、自治基本条例にある市民と市が情報共有する原則に基づき、全課の情報を提供している。必ずしも市民が知りたいメニューだけではない。人材バンクは現在、こんなことが出来ますという方が登録する作りになっているが、こんなことがしてみたい、こんなことが出来ない、という登録方法の発想もあった。

委員： 2つの制度を一本化してPRしたらどうか。人材バンクはこういう仲間を作りたいという方向性。市職員OBも登録し行政マンの登録内容があってもおもしろい

のではない。生涯学習を推進していくには、現役世代が仕事をしながら学習するノウハウや大学との提携による学習機会の提供などがあつたらよいのではない。

事務局： 企業の社会的貢献と地域活性化の連携については、現時点では第5次基本構想に向けた課題の整理という段階であり、掲出した内容は包括的な表現となっている。具体的事項は前期基本計画策定の段階で検討していくこととしている。

委員： 市民人材バンクの立場から、企業の社会的貢献との接点を見出すため産業振興課から商工会に連絡をとってもらい、可能性を探り出したところである。基本構想の作り方としては、キーワード、用語集があると便利である。

<大柱 学校教育の充実>

委員： 学力の向上について、学力平均の高い先進市への視察はあるか。給食費の未払い率はどうか。中・高一貫校の可能性について。

専門部会員： 富士見市の学力は全国平均レベルにあり、視察には行っていない。給食費は、未払いによって給食の質が下がる状態にはない。未払い家庭には根気強く催促している。支払えるのに支払わない家庭はつかんでいない。支払いが困難な家庭には就学援助制度を周知しているほか、校長認定により給食費を就学援助費からあてているケースもある。中・高一貫校については今のところ考えていない。

委員： 秋田県は学力平均が高いが必ずしも次につなげていない。

委員： 学習塾に通うことなしに公的教育だけで学力レベルがあがるとよい。

委員： 富士見市は就学援助の手当てが厚いという話を聞いたことがある。

委員： 幼児教育の振興は、経済的な支援はあるが教育内容には触れていない。福祉分野の柱立てへの移行や、保育所と併せた記述が考えられないか。

専門部会員： 市内に市立の幼稚園はなく私立であるため、教育に関する市教育委員会の権限はなく、父母負担軽減という面で、国の補助制度に基づいた助成制度を行っている。幼稚園と保育所は教育と保育という別々の所管となる。第5次基本構想策定にあたっては、市で行うべき計画の内容かどうか精査して進めていく。

委員： 学校応援団は、人材バンクとの関係を持たせた地域との連携を。富士見高校との連携を持ってないか。富士見市は昼間人口が少ないため、中学生を大人扱いする取組みを進め、地域のなかで活躍できる中学生を育成していったらどうか。

委員： 意識調査で男女共同参画の重要度は低い結果となっているが、中学生のときから男女共同参画の視点を入れた教育が必要である。

委員： 学校と地域との関わりで、中学校の部活動に一般者が参加する場合があるのではないか。

専門部会員： 中学校の部活動指導は、顧問が技術に長けていない場合があり、地域の方に指導をお願いしている。

委員： 地域の方をお願いするときは、地域情報だけに頼らず人材バンクも活用したらどうか。

委員： 地域住民が下校の見守り運動などをしているが、あいさつをしない子どもが多

い。家庭では知らない人にあいさつをしてはいけない、というしつけをしていると聞くが、その影響かもしれない。

委員： 児童生徒がもっと関心を持つような学校図書となるよう、さらに充実を図っていただきたい。

専門部会員： 国の基準に基づいた本の充足率は100%となっている。

委員： 古い本、表紙のない本もあるため、全学校図書の調査が必要となる。

専門部会員： 司書教諭はクラスを持っているため、学校図書に特化した時間が持てない状況にある。

委員： 将来的にはボランティアの対応が考えられる。

<大柱 市民文化の創造>

委員： 難波田城公園からびん沼公園に行こうとしたが辿りつけなかった。各施設に他の公共施設の案内板を取り付けて、公共施設へのアクセスがしやすいようにしたらどうか。また、難波田城公園で火縄銃を打てる機会を設けるなど、参加型イベントを増やすと集客効果があるのではないか。

委員： 難波田城公園を会場にした催しものなどは広報ふじみでも掲載している。

専門部会員： 市民文化会館のイベント情報は広報ふじみの1ページを割いて周知している。

委員： 文化水準との関係もあると思うが、周知はしていても感心がなければ目に入らない。文化事業のチケットは売りさばくのが中々難しい。

委員： 利用料金は他市と比較してどうか。

委員： 安いのではないか。

委員： 学校教育における文化創造事業として活用される具体例は。

専門部会員： 音楽鑑賞教室や、中学校で演劇活動を通じた連携授業を行っている。

委員： 中学生が市民文化会館のステージで合唱を行うのは、表現の場であり、情操教育の場となっている。

委員： 大学との連携により周知PRする機会も増えるのではないか。

委員： 発表会の日数を増やしたり、他校との交流の機会を設けたりしたらどうか。

市民文化会館は貸し館になっている。市民が出演する側に立てるよう、例えば第九の合唱を、市民、市民吹奏楽団、人材バンク登録者などが参加しステージに立つ機会があってもよいのではないか。

委員： 市民文化会館は会場によって早くから予約でいっぱいのあることあるため、一般開放日があるとよい。

部会長： 次回検討する大柱は、文化財の保存と活用、社会教育の充実、生涯スポーツ・レクリエーションの充実、国際交流の推進の4本とする。

5 次回会議

平成22年1月29日（金）夜7時から庁舎2階 市長公室

6 閉会